

2019/6/8(土)13:50-16:50 (受付開始 13:00)

## 認知症サポーター養成講座を実施して / 超高齢社会に対応した薬剤師に求められる必須知識～真の『かかりつけ』になるために

### 講座情報

#### 「認知症サポーター養成講座を実施して」

佐藤 志穂子

地域包括支援センターの業務の一部として地域に向けた認知症の普及啓発があります。当センターでは2011年から、薬学部の学生むけに認知症サポーター養成講座を実施しており、慶應大学では2014年から実施させていただいております。当初、実習に出る前の学生対象で講座を受けることになりました。認知症の理解がないままに実習にでていった学生が、認知症の患者と出会い、対応に困惑したということから始まりました。普及啓発だけではなく、地域の現状も発信する機会となっています。そこから介護、福祉、医療と連携が図れる結果になっていることも含めてお話させていただきます。

#### 《学習到達目標》

- 認知症の理解を深め、認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジリングをつけて現場に出ましょう。
- 認知症の高齢者を地域で支えるために、地域の関連機関と連携をとっていきましょう。
- 認知症の高齢者を地域で支えるために、地域の高齢者の生活に関心を持ち一緒に地域に出ていきましょう。

#### 「超高齢社会に対応した薬剤師に求められる必須知識～真の『かかりつけ』になるために」

川添 哲嗣

超高齢社会において、患者だけではなく多職種から求められている薬剤師の知識や技術は多岐にわたる。地域包括ケア、在宅医療、フィジカルアセスメント、ポリファーマシーなど様々なキーワードを各論ではなく全体像を踏まえた上で理解し、取り組んでいく必要がある。

また、前述のキーワードに加え、リハ薬剤、ICF、CGA、地域ケア会議、フレイル、サルコペニア、薬物療法適正化、入退院支援、薬業連携、多職種連携など多くのキーワードについても一連の流れの中で理解し習得していただく。

薬物療法の知識はもちろんのこと、ケアマネやリハ職らとの共通言語を身に付けた薬剤師こそ、超高齢社会に対応した真の「かかりつけ薬剤師」となり得る。

#### 《学習到達目標》

超高齢社会において、処方提案(薬物療法適正化)をするための5keywords & 3pointsを習得し、超高齢社会に対応した真の「かかりつけ」薬剤師になる

#### 《講演要旨》

超高齢社会では、5Keywords(リハ薬剤、ICF、CGA、ポリファーマシー、中段優先順位アルゴリズム)と3points(残薬の原因と対策、ケアプランとの連動、体調チェックの手法)の理解と習得が大変重要である。

## 講演者情報

### 「認知症サポーター養成講座を実施して」

佐藤 志穂子

麻布地区高齢者相談センター(港区南麻布地域包括支援センター)社会福祉士  
北海道出身

### プロフィール

1979年 北星学園大学社会福祉学科、

1980年 国立公衆衛生院(現 保健科学院)専攻コース衛生教育学科卒業。

1980年 都内の病院でMSWとしてリハビリテーション科の医療相談にあたる。

1992年 特別養護老人ホームに転職。生活相談員として高齢者福祉の業務を行う。

1999年 介護支援専門員と訪問介護事業所の運営に携わる。2002年老人保健施設に支援相談員、施設介護支援専門員。

2006年より現職。

現在:港区医師会地域包括ケアシステム研究会委員、港区地域リハビリテーション推進会議委員、みなと主マネ隊副隊長、東京社会福祉士会 地域包括支援センター委員会委員、全国済生会在宅サービス協議会地域包括支援センター部会部長

現在に至る

### 参考サイト

全国キャラバン・メイト連絡協議会

<http://www.caravanmate.com/>

### 「超高齢社会に対応した薬剤師に求められる必須知識～真の『かかりつけ』になるために」

川添 哲嗣

高知大学医学部附属病院 薬剤部

### プロフィール

1990年: 神戸学院大学薬学部卒業

1990～94年: **営業職**:ニチバン株式会社にて薬局、病院、スポーツ店、量販店の営業担当。特に地域に根ざした薬局に魅力を感じる

1994～98年: **病院薬剤師**:服部病院(兵庫県)に1年、JA高知病院(高知県)に3年勤務。阪神大震災での救助活動、病棟や外来で様々な患者さんに関わる中で多職種連携の重要性を知る

1998年～2014年: **薬局薬剤師**:くろしお薬局グループ代表(副社長)として高知県内外に16店舗を運営。在宅医療に深く関わる

2014年: **再び病院薬剤師**:医療法人つくし会南国病院薬剤部部長として、院内はもちろん地域の医療介護職と連携しながら入退院・在宅移行を支援

2018年6月: **フリーランス薬剤師**:部長職を降り、南国病院と高知調剤薬局を兼務しつつ、全国各地での講演、医学部、看護学部、薬学部で講師。また、カワゾエ・コーチングラボ代表として、セミナー運営、人材育成も行っている

2019年4月～： 高知大学大学院にて臨床研究にも携わる

2019年6月～： 高知大学医学部附属病院 薬剤部に就任

現在に至る

### 主要著書

「Do 処方、特変ナシ」から脱却セヨ！（日経 BP 社）

以下共著

体調チェックフローチャート(じほう)、在宅医療 Q&A(じほう)、在宅薬剤管理入門(南山堂)

### 参考サイト

週刊川添ラヂオ(CareNet)

[http://www.carenet.com/pharmacist/kawaradio/cg002232\\_index.html](http://www.carenet.com/pharmacist/kawaradio/cg002232_index.html)

J-HOP(全国薬剤師・在宅療養支援連絡会)

<http://www.j-hop.jp>